

Q&A

Q 研究インターンシップについて、何か決まり事はありますか？

A 授業としての履修の決まりがあります。
研究インターンシップのシラバスを確認してください。

Q 研究インターンシップでは何を学ぶことができるのでしょうか？

A 学習してきた知識や技術を実践で試してみること、多様な人々・研究手法に触れ、高度工学人材としての実力を向上させることを目的とします。

Q 学生が自分で見つけてきたインターンシップでも条件がそろえば認められますか？

A 指導教員に相談してください。指導教員の指導の下、研究インターンシップの目的に即していれば問題ありません。

Q 期間中に、名工大で開講される他の科目を履修することはできますか？

A インターンシップ先に毎日通いますので、その期間中に本学で開講されている他の科目は原則受講することはできません。2年次での履修や他のクォータに開講されている科目の履修を検討してください。

研究インターンシップに関する問合せ・連絡先(平日8:40~17:10)

学修に関すること

名古屋工業大学 創造工学教育推進センター 19号館2階 TEL: 052-735-7973

手続に関すること

【国内】名古屋工業大学 学生生活課 就職・キャリア支援係 19号館1階 TEL: 052-735-5075

【海外】名古屋工業大学 国際交流課 学生交流係 19号館2階 TEL: 052-735-5350

2026

名古屋工業大学
研究インターンシップ

博士前期課程 対象

01

研究インターンシップの概要と目的

研究インターンシップの概要

名古屋工業大学の研究インターンシップは、大学院博士前期課程の学生が日本国内外の研究機関や企業等において、各自の分野・関心と関連した研究・開発活動に参加するものです。

研究インターンシップは、単なる就業体験とは異なります。研究・開発等を通じて自身の技術力や経験等、高度工学人材としての実力を獲得する実習活動です。学生は所属する研究室指導教員の指導に従い、研究インターンシップを進めます。

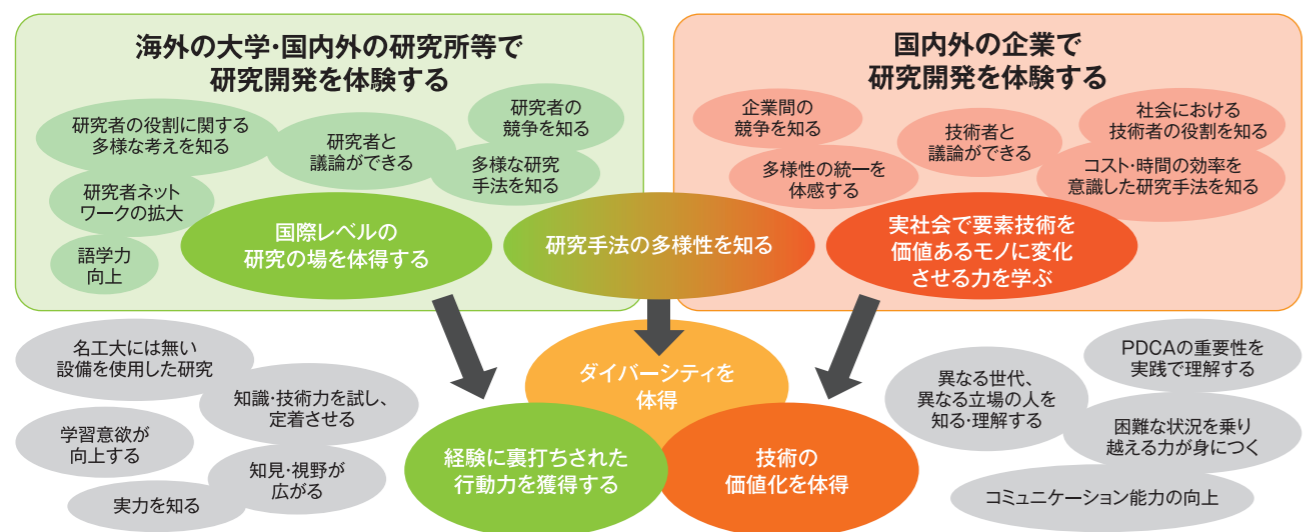
研究インターンシップの目的

これまでに学んできた知識や技術を実践で活用し、研究・開発能力を向上させるとともに、多様な人々や多様な研究・開発手法に触れ、高度工学人材としての実力を格段に向上させることを目的とします。

研究インターンシップの具体的な目標は各自が様々な想定することができます。例えば次の項目を挙げるすることができます。

- 01 これまでに学んできた知識・技術が実社会においてどのように活用され、製品やサービスの開発につながっているかについて理解を深めます。
- 02 各機関の定めた目的・目標によって様々な価値やアプローチ、人々との連携方法を体験し、チームワークの進め方、期限や目標を定めた開発手順等について理解を深めます。
- 03 基礎研究と研究開発の違いや異なる文化の違い等、これまでと異なる環境に身を置くことで、多様な体験を獲得します。経験の多様性を重視し、様々な経験に向かいます。
- 04 外国語を使ったコミュニケーションや、様々な研究者・その他の職能の人々との出会い等を重視し、情報へアクセスする行動力、様々な人とネットワークを作り出す力を獲得します。

研究インターンシップの目標



02

研究インターンシップ参加者の声

機械工学プログラム

一ノ瀬 花奈

研修先
クレムソン大学(アメリカ)



私は、アメリカのクレムソン大学で3ヶ月半の研究インターンシップに参加しました。受け入れてくださった研究室では、先生やメンバーの皆さんが丁寧に実験方法を教えてくださり、休日には遊びに誘ってくださるなど、温かく迎え入れていただきました。そのおかげで、研究だけでなく、充実した日々を過ごすことができました。また、友人も増え、多くの貴重な経験をしました。研究インターンシップでは、研究だけでなく、人との交流も大切に、日本ではできない体験を存分に楽しんでほしいと思います！

メディア情報プログラム

月東 菜乃

研修先
ボンパウ・ファブラ大学(スペイン)



研修先では、音や情報に関する知識を深めながら、ホストの先生とのミーティングを通じて自身の音楽音響信号に関する研究を進めました。また、各国から集まった学生と交流し、休日には国内外を訪れ、日本では見られない景色や文化を多く体験しました。この挑戦を通じて、新たな知識やスキルだけでなく、未知の環境に飛び込む積極性や自信も身につけることができました。今後も新しいことに積極的に挑戦していきたいです。

創造工学プログラム／知能情報分野

中村 優希

研修先
セーチェニ・イシュトヴァーン大学(ハンガリー)



私は約3ヶ月間、研修先で次世代の通信規格に関する研究を行いました。英語での専門的な議論に苦戦しながらも、「言いたいことをどう伝えるか」を考える力が身につき、自分の成長を感じました。また、現地学生との交流では多様な文化や価値観に触れたことで、視野が広がるとともに日本の文化や技術の良さも再認識できました。このように研究インターンシップは研究面だけでなく、多くの学びを得ることができる貴重な機会だと感じています。参加した際には、ぜひ色々なことに挑戦してみてください！

創造工学プログラム／環境セラミックス分野

笹平 拓寛

研修先
延世大学校(韓国)



韓国の延世大学で3か月間の研究インターンシップに参加し、初めて海外での研究に挑戦しました。母国語が通じない環境は新鮮で、現地の学生の高い英語力には大きな刺激を受けました。延世大学は韓国屈指の名門校で、学生の研究スキルや実行力が際立っていました。そのような環境で研究を進め、計画力や論理的解決力が大きく向上しました。また、異なるバックグラウンドを持つ学生と議論を交わし、多様な視点の重要性を改めて認識しました。短期間であっても、得られる学びは非常に多いと実感しています。

創造工学プログラム／建築・デザイン分野

稲垣 碧乃

研修先
名工建設株式会社



私は建築部にて、名古屋支店と地域振興施設の現場で研究インターンシップを行いました。支店ではBIMモデルの作成や入札案件の現場調査に同行し、社内情報共有資料の取りまとめ等の業務に携わりました。現場では、躯体仕上がり確認のための記録写真撮影や墨出し作業をさせていただきました。この体験を通して、予算や立地条件、工期などの様々な制約がある中で、部署間の連携で緻密な計画が立案される過程を学びました。また、精密な施工図を実際に目にし、その重要性に理解を深め、非常に貴重な経験となりました。

創造工学プログラム／生命・物質化学分野

落合 敦士

研修先
東レ株式会社



私は技術開発部門で3か月間の実習を経験しました。研究分野とは異なる領域で苦労もありましたが、全力で取り組み、多くを学びました。大学の研究との主な違いは2点あると感じました。1つ目はスケジュール感です。明確な納期が設定され、目標品質の達成が求められるプレッシャーがありましたが、達成感は大変なものでした。2つ目は規模の大きさです。工場設備を用いた実験では、機器や材料費のスケールが大きく、貴重な経験となりました。この学びは、研究活動や将来において大きな財産になると感じています。

03

研究インターンシップの履修に関して

対象

博士前期課程

修得単位

専門教育科目「研究インターンシップ」4単位

時期と期間

- 博士前期1年
- 原則3カ月以上
多くの場合、9月～12月頃ですが、他の時期も可能です。

研究インターンシップ派遣先機関

国内外の企業、研究機関、地方自治体、および海外の大学等で、学生の専門分野に関連した研究活動を実践できる機関

派遣前に必要な事項

下記の4つが派遣前に必要な事項です。

特に、知的財産権、工学倫理に関する科目の履修について、履修登録期日に注意してください。

01 知的財産権等に関する大学院科目

派遣先機関の知的財産権を侵害しないこと、学生自身の権利を守ることを目的に、知的財産について学びます。

共通科目「知的財産権特論」または工学デザイン科目「技術者基盤」のいずれか

02 工学倫理に関する大学院科目

技術者に必要な倫理について修得します。開講時期に留意して受講してください。

共通科目「工学倫理特論」、「技術と倫理」 または「社会工学技術倫理論」のいずれか

03 研究倫理に関するeラーニングの受講

研究者に必要な倫理について、APRIN eラーニングを受講して確認します。

派遣先機関が決定した学生に、受講方法を案内します。

04 派遣オリエンテーションへの参加

研究インターンシップ派遣前に、オリエンテーションを行います。必ず参加してください。

04

履修に向けての準備

01 研究インターンシップの派遣先

指導教員が紹介する派遣先と、創造工学推進センターが紹介する派遣先があります。

02 旅費などの費用

行先や状況によって金額が異なりますが、費用は原則自己負担ですので、十分に検討してください。海外での実施の場合、大学から24万円の給付があります(2025年度実績)。また、外部の財団や奨学金の申請も可能です。

03 派遣前に身に付けるべき能力

研究インターンシップ中に身に付けたい目標を明確にしてください。専門知識やコミュニケーション力も大事です。特に海外派遣の場合は、原則としてCEFR・B2レベル(専門分野における会話ができる程度)の英語力が必要です。

04 保険の加入

万が一の事故に備え、下記の保険の加入を義務付けています。本学では、全学生が入学時に「学生教育研究災害傷害保険Aタイプ(学研災)」及び「学研災付帯賠償責任保険(学研賠)」に加入することとなっています。未加入の場合は、必ず加入してください。海外でインターンシップに参加する学生は、これらに加えて、必ず「学研災付帯 海外留学保険(付帯海学)」に加入してください。「付帯海学」は保険金による補償の他に、海外における各種支援サービスが受けられます。さらに補償内容が不足と思われる場合は、各自で追加して保険に加入してください。いずれも補償内容は加入時のパンフレットで確認してください。

- | | | |
|---|------|---|
| ● 国内インターンシップ 学研災、学研賠 | 問合せ先 | ● 学研災、学研賠 学生生活課 奨学支援係(19号館1階) |
| ● 海外インターンシップ 学研災、学研賠、付帯海学
その他、受入先機関が加入を求める保険に加入してください。 | | ● 付帯海学 国際交流課 学生交流係(19号館2階)
http://www.jees.or.jp/gakkensai/ |

05 海外における危機管理について

始めに「自分の身は自分で守る」という意識を持ってください。

本学の海外派遣等危機管理マニュアル(<https://www.nitech.ac.jp/int/abroad/management.html>)

を熟読し、外務省海外旅行登録「たびレジ」及び危機管理会社(大学が契約しています)への登録を必ず行い、情報を収集すると共に有事の際の連絡先についても再確認してください。

問合せ先: 国際交流課 学生交流係(19号館2階)

06 研究インターンシップに関する情報

創造工学教育推進センターウェブサイト 学内公開資料 (<https://creec.web.nitech.ac.jp/internal/>)

リンクされているMoodleページも参照。派遣の手順、書類様式、派遣先機関などが閲覧できます。(指導教員による派遣の場合は、派遣の手順が異なる場合もあります。)

スケジュール(例)

